授業科目　カウンセリング論

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	社会
伊東　正裕	開講時期	後期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】

ソーシャル・ワーカーは、心の相談のための面接（広義のカウンセリング）を適切に行う必要がある。この授業ではそのために、面接法についての理解を深め、カウンセリングの基本を習得することを目的としている。具体的には心の相談を受ける際の基本的態度や技法を身につけ、来談者の訴えを「分かること」や深い悩みを「受け止めること」が実践できるようになることを目指す。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．ソーシャルワーカーがカウンセリングを「学ぶこと」の意義を説明できる。
2．カウンセリングの目的やカウンセラーの倫理について説明できる。
3．カウンセラーの基本的態度やカウンセリングの基本的技法について説明し、実践できる。
4．カウンセリングの構成要素について説明し、実践できる。
5．カウンセリングの展開について説明し、実践できる。
6．カウンセリングにおける実践と理論の関係や、学習方法・研究方法について説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	ソーシャルワークとカウンセリング・カウンセリングを学ぶ意味	1	講義
2	カウンセリングとは何か	2	〃
3	面接者の倫理	2	〃
4	カウンセリングの実際（１）分かるということ・初回面接と面接のゴール	3	〃
5	カウンセリングの実際（２）面接で得られる情報・構造化された観察	3	〃
6	カウンセリングの構成要素（１）聴くこと	4	〃
7	カウンセリングの構成要素（２）見ること	4	〃
8	カウンセリングの構成要素（３）対等な出会い	4	〃
9	カウンセリングの構成要素（４）専門的関係・ストーリーを読む	4	〃
10	カウンセリングの展開（１）訴えを「分かること」１	5	〃
11	カウンセリングの展開（２）訴えを「分かること」２	5	〃
12	カウンセリングの展開（３）悩みを「受け止めること」１	5	〃
13	カウンセリングの展開（４）悩みを「受け止めること」２	5	〃
14	カウンセリング理論と実践・学び方と研究法	6	〃
15	まとめ	1～6	〃

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	面接法（追補版）	熊倉伸宏	新興医学出版	2003・1,500円
参考書	新訂・方法としての面接	土居健郎	医学書院	1992・1,800円
その他の資料	適宜プリントを配布する。			

【評価方法】

定期試験あるいは期末レポート

【履修上の留意点】

この授業は、３年次前期に開講する「カウンセリング技法」につながるものである。「カウンセリング技法」の受講を希望する人、及び精神保健福祉士受験資格の取得を希望する人は、しっかり学んでおくことが望ましい。